

令和 8 年度 第 1 回磐田市健康づくり推進協議会次第

令和 8 年 8 月 13 日（木）午後 2 時 00 分～

磐田市総合健康福祉会館（i プラザ）

2 階 ふ れ あ い 交 流 室 1

1. 開 会

2. 新任委員紹介

3. 健康福祉部長挨拶

4. 会長挨拶

5. 議事・協議

（1）令和 8 年度の健幸いわた 21 推進に向けた取組状況について

（2）高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業について

6. その他 連絡事項

・ポスターコンクールの審査会へのご協力について

・第 2 回健康づくり推進協議会日程について

令和 9 年 3 月 11 日（木）午後 2 時～ i プラザ 2 階ふれあい交流室 1

7. 閉 会

【資料1】令和7年度の主な課題・令和8年度取組状況

	令和7年度の主な課題	令和8年度取組状況
【重点取組1】 糖尿病の発症予防 重症化予防の取組	●特定健診 受診勧奨の強化と受診しやすい環境整備 ・特定健診受診率が、データヘルス計画の目標値に届いていない。 ・40代、50代の若年層の受診率が低い。	・年度末年齢40歳、50歳の健診費用無料化の継続 ★県と県内6市町（伊東市、裾野市、富士市、磐田市、東伊豆町、吉田町）が連携して実施する特定健診の受診勧奨事業（R8～10）に参画（連携協定締結） →AI分析により対象者ごとに響きやすい内容の受診勧奨ハガキを送付 →40歳・50歳向けの受診勧奨ハガキを送付 →ハガキのQRコードから健診の情報をまとめた特設サイト（HP）へ誘導
	●特定保健指導実施率の維持と成果のある保健指導の実施 ・初回指導後、訪問不在や連絡が取れない対象者への対応 ・保健指導従事者の技術向上 ・保健指導や受診が必要になる前の早期の介入が必要	・特定保健指導の一部を健診機関や杏林堂に委託 ★特定保健指導の途中中断者を減らす試みとして、LINEを活用した特定保健指導を開始 ・保健指導従事者の資質向上のため、勉強会等の開催 →事例検討会（毎月1回）の実施や県主催の技術向上研修への参加、外部講師による研修会を実施予定 ★体ととのAプログラム - 対象：特定保健指導及び重症化予防対象外だが、生活習慣病に関する検査項目でリスクが高い方。 国民健康保険加入者だけではなく、社会保険加入者も対象とする。 - 内容：健康器具を使った測定と、生活習慣病予防のための運動や栄養の健康教育及び相談を行う。 - 方法：平日昼間に加え、平日夜間や土曜日にも開催 2回実施（初回+3か月後フォロー） - 共催：（株）シンコースポーツ
	●医療機関未受診者や治療中断者への適切な介入及び重症化予防に向けた取組の推進 ・医療機関未受診者と治療中断者の医療機関受診率の向上 ・受診が必要になる前の早期の介入が必要	・対象者の受診行動につながる効果的な勧奨資材を作成予定 ・HbA1c6.5以上で医療機関未受診者への受診勧奨及び保健指導を実施（一部委託） ・特定健診を未受診で糖尿病治療を中断している者へ受診勧奨通知を送付し、状況を確認 ★糖尿病教室 - 特定健診受診者のうち、HbA1c6.5～7.5で糖尿病薬の服薬をしていない方を対象に、病態・食事・運動に関する教室を開催。専門職による指導を通じて生活習慣の見直しに繋げる。（全2回講座、定員20名） （再掲）体ととのAプログラム
	●保健・医療の連携推進 糖尿病性腎症重症化予防 ・医療機関との連携体制の構築 ・保健指導従事者の技術の向上	・糖尿病通院中でHbA1c6.5%以上かつ75歳未満の者へ保健指導を実施 ・医療機関との連携体制のあり方について、医療機関の意見も踏まえ検討 ・医療機関からの保健指導の依頼について、保健師・栄養士で事例検討した上で指導を実施

【重点取組2】 生活習慣の改善 に向けた取組	●健康に配慮した食事のとり方の普及 ・若い世代ほど野菜摂取量が少ない。 ・野菜摂取量増加の取組だけでなく、食事バランスの大切さについても普及が必要	・市内公立高校にて食育講座を開催（磐田南高校、磐田西高校、磐田農業高校） ・公立園年中児・年長児へ野菜摂取「やさいをおいしくたべたよシート」実施の継続 ★一部公立園において、年長児を対象にバランスの良い食事についての啓発を追加 →食育講話、リクエスト献立、朝食バランスシートの配布 ・大学生への啓発機会の検討 ・企業と連携した野菜摂取量増加の取組を検討 ★健幸いわたDAY＆WEEK 令和8年4月1日より毎月1日を「健幸いわたDAY」と設定した。市民一人ひとりが自身の健幸へ関心に向け、健康づくりに主体的に取り組めるよう、毎月1日に合わせて様々な健幸情報の発信や健康づくりイベントを行うことで、健幸情報に触れた市民に「健幸いわたDAY」の定着を促していく。 また、9/26（土）～10/3（土）を健幸いわたWEEKと設定し、健幸への関心や健康づくりに向けた啓発を強化する。SNSを活用した情報発信を集中的に行ったり、市内商業施設での健康イベントを実施予定。 ★モアベジ350：企業や飲食店との共創で、野菜摂取を促す取組を実施 <u>（飲食店との共創）</u> 市内飲食店において、加熱前重量100～120 g程度の野菜を使用したメニューを注文した方へ、インセンティブを配布。 →野菜を多く含むメニューを選択するきっかけづくりにする。 <u>（小学生を対象とするポスターコンクールの実施）</u> 市内の小学生を対象に、夏休みの課題として「野菜を食べようポスターコンクール」を開催。野菜摂取に対する児童の関心を高めるとともに、家庭における野菜摂取のきっかけづくりとする。 受賞者の表彰式は、健幸いわたWEEK期間中にららぽーと磐田で開催予定。また、ポスターは市民に向けた野菜摂取の啓発媒体として市内の野菜販売店5店舗にて掲示予定であり、野菜の購買さらには野菜摂取へ繋げていく。 <u>（ベジチェック測定の実施拡大）</u> 新規：2歳8か月児フッ素塗布時、市内の子育て支援センターでの実施拡大、遠鉄ストア見付店、フィールエクボスタイル 磐田豊田店、香りの博物館、とよおか採れたて元気むら、JA等 ★まち保NEO：より若い世代を含めた市民の健康意識向上につながるよう、市民にとって身近な店舗や地区でのイベント等で開催 （再掲）体ととのAプログラム
--	--	--

	●身体活動・運動量の増加の働きかけ ・他課、他分野と連携した取組の推進 ・ウォーキングマップの普及方法の検討	・スポーツのまち推進課との連携 ①スポレクフェスタやららぽーと磐田でのウォーキングイベントに参加し、身体活動量を増やす取組についての普及啓発を実施予定 ②ウォーキングマップの普及啓発 ウォーキング新規実施に向けた啓発としては、民生委員児童委員協議会や交流センター、地域の講座等で周知、健康増進課Instagramにてコースを紹介。ウォーキング実施者へのフォローアップとしては、ウォーキングの自主グループに配布。 新コースを追加し、新コースと既存のコースを活用したウォーキングイベントを実施予定。 ・いきいき百歳体操の支援 市内113団体実施 継続支援として、リハビリ職派遣を実施 交流会では、リハビリ職より効果的な体操方法を伝授 より効果的に体操が実施できるように、体操のポイントを入れたDVDを配布。 活動開始から10周年を迎える団体に対し、地域の介護予防活動への貢献をたたえ表彰した。R8年度対象団体：25 (再掲) まち保NEO、体ととのAプログラム、健幸いわたDAY & WEEK
重点以外の取組	●自然に健康になれる環境づくり ・健康に対し関心が低い人や若者世代に健康情報が届いていない。	・他課や学校、企業等と連携し、健康増進課Instagramを介して健幸情報の発信を行う 健康増進課Instagram投稿数：26件（R8.7.16時点） 投稿内容：毎月1日の健幸いわたDAYに合わせた健幸宣言、イベントの周知・報告、ウォーキングマップコースの紹介、健診受診勧奨、健幸情報（熱中症予防、筋力運動、ラジオ体操、野菜摂取の勧め、禁煙の勧め等） フォロワー数：538人（R8.7.16時点） 協働：スポーツのまち推進課、磐田市産業大学、地域おこし協力隊、磐田市消防本部、企業、静岡県予防医学協会 ★産官学が連携し、ベジレシピや運動メニューの考案 (再掲) まち保NEO、モアベジ350、健幸いわたDAY & WEEK
	●健康経営支援 ・企業への健康経営の必要性和メリットの周知が不足 ・共創での支援を加速させていくとともに、健康以外の視点を含めた体制づくりが必要	・申請があった企業に対して保健師・栄養士を派遣し、従業員の健康づくりに関する支援を実施 R8.7.16時点合計：3企業（相談受けた企業：2企業） ・庁内横断的なプロジェクトを立ち上げて、共創の視点で連携を図りつつ、全市的に企業の健康経営を推進する体制づくりを行っていく。 ・現在庁内プロジェクトが進行しており、より多くの企業が健康経営に取り組み始めやすく、ニーズに応じた支援が受けられるような体制を考案中。
	●こころの健康 ・ゲートキーパー養成研修の対象者や、自殺対策啓発物品の配布先の固定化	・庁内職員に向けたゲートキーパー養成研修に加え、民生委員（希望の地区）への養成研修を実施 ・9月の自殺予防週間に啓発物品を配布（民児協、子育て支援センターなど） ・9月中旬、3月の自殺予防週間・玄関に合わせて自殺予防関連のポスター掲示予定（市役所・iプラザ・図書館）

★はR8新規事業

○市民への「健幸いわた21」計画周知について

リーフレットの説明・配布状況 合計：3937部（R8.7.16時点）

令和8年度配布先

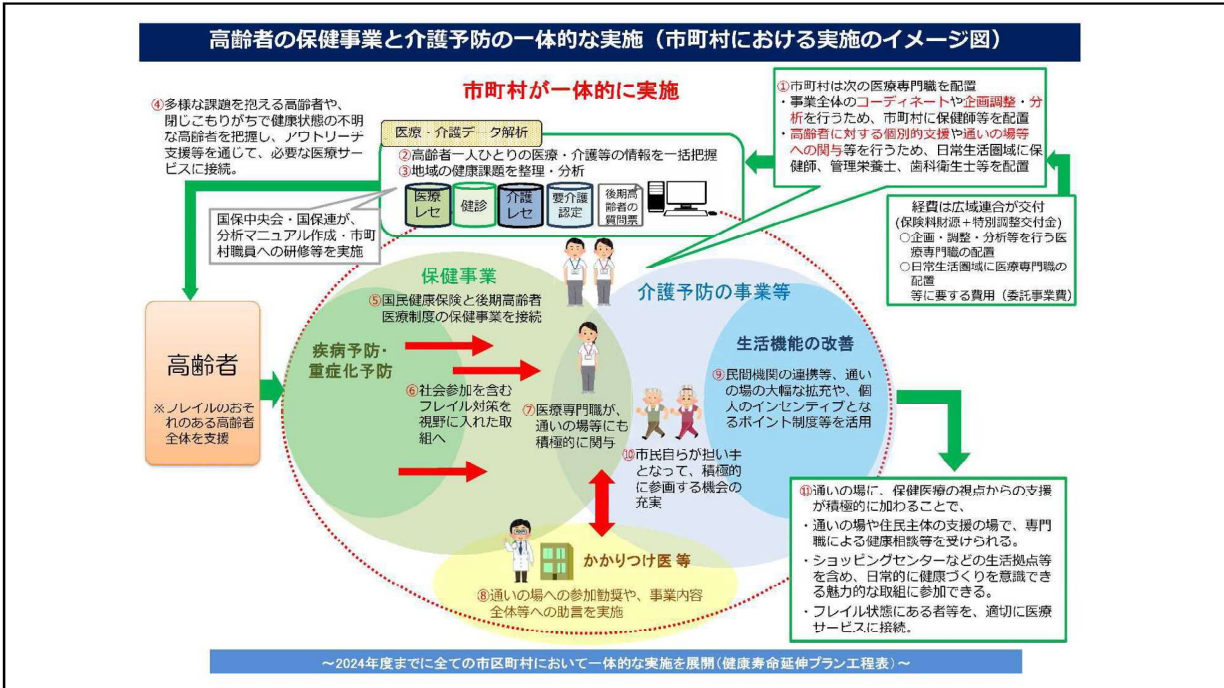
市民公開講座、地区福祉懇談会等

【資料2】

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業について

- 事業概要
- 令和7年度実績
- 令和7年度の課題と対策
 - ① 糖尿病治療中断者への介入方法の変更
 - ② ハイリスク者への早期介入
 - ③ 健康状態不明者への介入方法の変更
- 令和8年度の取組みについて





ハイレスクアプローチ

【低栄養】 体重減少が大きい方（前年度健診時より-3kg、BMI20以下 等）

●対象 34名 → 保健指導 32名

【重症化予防】 ①健診を受診しているが高血圧や高血糖などがあり重症度が高い方

●対象 92名 → 保健指導 86名

②医療受診なし、受診勧奨値がある方

●対象 37名 → 保健指導 33名

③過去に治療歴あるが医療受診が中断している方

●血圧：対象 105名 → 全員に通知送付 うち、保健指導 10名

●血糖：対象 40名 → 通知送付し、結果により訪問 14名

【健康状態不明者】 健診受診なし、医療受診なし、介護認定なし、の方へ高齢者質問票を送付

回答内容に心配のある方、返信がない方への訪問

●対象 419名 → 訪問 384名

ポピュレーションアプローチ

【低栄養】

【口腔】

【身体的フレイル】

いきいき百歳体操実施団体のうち、該当する団体へ、理学療法士等のリハビリ専門職・栄養士・歯科衛生士を派遣して講話を実施

	団体数	参加人数
交流会	69	105
リハビリ専門職派遣	10	138
栄養士派遣	7	84
歯科衛生士派遣	6	70

課題と対策① 糖尿病治療中断者への介入方法変更

課題

糖尿病対策に重点を置く必要があったが、治療中断者に対して受診勧奨の通知送付のみだった。

対策

状況確認書（右記参照）を送付し、返信をいただいて状況を把握し必要な対応ができるように変更した。

【送付対象者】

令和7年6月末時点で以下のすべてに該当する方

●令和6年度後期高齢者健診受診なし

●令和3～5年度に**糖尿病の診療状況がある方**

かつ、令和6年度薬剤処方なし

【介入結果】

対象者 40名 → 返信あり 24名
返信なし 16名
(うち、訪問 14名)

糖尿病治療状況確認書

下記の質問項目について、以下のいずれかの方法でご回答ください。

① この用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒にて返送する。

または

② 右の二次元コードを読み取り回答する。⇒



1. 通知が送付された方についてご記入ください。

お名前

生年月日 昭和 年 月 日

住 所 〒 市 区 町 丁目 番 号 番 号
勢田市

電話番号

2. 糖尿病の治療状況についてご記入ください。

(1) 現在、糖尿病の治療（受診や内服等）をしていますか？

はい ・ いいえ

(1)で「いいえ」と回答した方

(2) 受診や内服を中断している理由は何ですか？

(該当する番号に○をつけてください。複数選択可)

1	完治（治療）した
2	経済的な理由で受診をやめた
3	病院に通院せず、自分で運動・食事に気をつけている
4	内服中止に改善し、かかりつけ医で定期的に経過観察している
5	その他（自由記載）

課題と対策②ハイリスク者への早期介入

課題

重症度の高い受診勧奨値であるハイリスク対象者に対して、健診実施の翌年度に保健指導を行う体制をとっており、早期の対応が望まれるにも関わらず保健指導のタイミングが遅くなっている。

対策

重症度の高い受診勧奨値であるハイリスク対象者に対して、当該年度の上半期に実施した健診受診者へは年度内に保健指導するよう改めた。

課題と対策③健康状態不明者への介入方法の変更

課題

健康状態不明者（健診受診なし、医療受診なし、介護認定なし）へ高齢者質問票を送付し、状況把握しているが、対象者の中には判断能力の低下があり、適切な相談につながりにくいケースが多い。

訪問しても不在の方もおり、数年会えない方もいて、状況が掴めない方もいる。
また、就労されている方も対象として挙がってしまう。

対策

2年連続で対象となっているが面会できていない方に力点をおいた訪問を実施。不在票のポストインや訪問のお知らせを事前に郵送し、効率的な状況把握に努めた。

就労している方は高齢者質問票で就労の有無が分かるよう、様式を変更していく。

令和8年度の取組みについて

対策① 糖尿病治療中断者への状況確認書送付継続

対策② ハイリスク者への早期介入継続

- ・できるだけ多くの対象者へ、年度内の早期介入を目指す

対策③ 健康状態不明者への選定方法見直し

- ・75歳以上でも就労されている方の健診受診状況が把握が出来るよう、質問票の内容を見直す

第1回 磐田市健康づくり推進協議会 ご報告
【委員の皆様からいただいたご意見への回答】

令和8年度の健幸いわた21推進に向けた取組状況について…資料(1)	
意見	・受診勧奨の該当者に渡すパンフレットについて、カラーでなるべく文字は少なくして絵や写真を多用しシンプルで見やすくまた見入ってしまうようなものにして、写真はよく海外のタバコのパッケージに印刷されているような毒毒しい恐ろしい疾患者の状態のものを載せて早期に検診、治療を始めないと大変な事になってしまうよ的なメッセージ性のあるのはどうでしょうか？インパクトは有ると思います。
回答	県と連携しながら、ナッジ理論等を駆使して、対象者に響く文面、レイアウト、色合い等を検討していきます。
意見	・園は、直接子どもに働きかけることができますし、保護者の方も学校に比べれば距離が近く啓発活動がしやすい強みがあります。ご提案いただければ、協力できることがあると思いますので、ぜひ活用してください。
回答	子育て世代への介入が難しい中で、園や学校を通して働きかけていくことの重要性を感じています。今後、より一層連携していきます。
意見	・毎月1日を「健幸いわたDAY」に設定し、インスタグラムで磐田市長を筆頭に関係者の宣言を目にしました。9/26(土)～10/3(土)は「健幸いわたWEEK」とのこと、次回での報告を期待します。
回答	第2回磐田市健康づくり推進協議会で報告していきます。
意見	・からだとのAプログラム、モアベジ350、まち保NEOとありました。市民に広く知ってもらうためには、より一層の啓発が必要に感じます。
回答	広く市民へ周知していくことについて、課題と感じています。他課や他機関、他団体と連携しながら、どのような媒体を用いて周知していくかを検討し、啓発していきます。
意見	・糖尿病教室を予定しているとありました。具体的な説明は聞けませんでした。
回答	8月13日時点では未実施であったため、第2回磐田市健康づくり推進協議会で報告していきます。
意見	・高校生対象の食育講座、年長・中児対象の「やさいをおいしくたべたよシート」、小学生対象の「野菜を食べようポスターコンクール」等を計画されているようですが、フォロー不足を感じます。効果の検証をお願いします。
回答	事業の効果測定について、今後検討していきます。
意見	・「ウォーキングマップ」の見直しにあたって、給水所の有無・場所がわかる工夫をお願いします。
回答	自動販売機や給水場所となる民間施設は、情報量が多くなってしまうことや長期的にみて常設していることが確証できないため、掲載を控えさせていただいております。公的施設については、情報を掲載しておりますので、各施設にお問い合わせをいただく形になります。また、十分な水分を持参のうえウォーキングを行うよう、マップに掲載しております。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業について・・・資料(2)	
意見	・事業背景のイラストの中に分断が2ヶ所あります。健康増進と介護予防との間の分断、75歳を境にした前期・後期高齢者を区分する分断と受け取れますが、もう少し詳しい説明があった上で取り組む事業の報告があるとわかりやすいのではと感じました。
回答	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業は、生活習慣病対策・フレイル対策として医療保険者の違いや医療・介護保険制度の違いにより取り組みが分断されないよう、一体的に取り組むために改正された制度です。事業背景を説明する際は、この点について説明していきたいと思います。
意見	・後期高齢者になっての健診の結果表の中で、メタボ判定は判定対象外とあります。今一つ納得する答えを持ち得ていません。測定する項目・欄があつて最終的に対象外との語句に疎外感が否めません。
回答	後期高齢者健診と40～74歳までの特定健診では、健診の目的が異なり、それぞれ年齢に応じた内容を実施するよう定められています。後期高齢者に対する健診の実施にあたっては、これまでの肥満対策に重点をおいた生活習慣病予防から、体重や筋肉量の減少を主因とした低栄養やフレイルに着目した対策に徐々に転換することが求められています。 40～74歳と同様に一律に積極的な減量を行うと、低栄養や筋肉量の減少リスクが高くなってしまうことから、後期高齢者健診では、腹囲からメタボ判定をして減量目標を定める保健指導は実施していません。そのため、生活習慣病予防として、腹囲と同じく体格をみるBMIで、肥満や低栄養に該当する方を抽出し、個別の状況に応じてフレイル予防やQOLの維持・向上のためアプローチを行っています。また、血液検査の結果による早期発見、重症化予防のため介入や受診勧奨を実施しており、年代に応じた細やかな支援を心掛けています。
意見	・磐田市立総合病院の地域医療連携室が主催する病院長や課長の講座が、年に数回いわたホットメール等で案内があります。また、ふれあいサロン等の集まりに対して、時に地域包括支援センターの活動・業務の案内を受けます。今一つ見える連携の必要を感じます。
回答	今年度は、磐田市立総合病院主催の講演会で、ブース出展する形式で協力させていただきました。今後の連携については、検討していきます。